

メインテーマ：
オープンデータを使って地域の安全
を考える

テーブルNo: 4

丸田哲也

課題出し

- 車・バイクのスピードが早い →みんな使える手段(公共交通)で歩く、歩行の促進、コミュニケーション増加につながる
- すれ違う人のデータを収集して、そこから事件があったら追える仕組み
- 危ない道／危なくない道 →通れる道を規制する
- 事故を起こすと口座から自動的にお金がひかれる
- 移動データの公開
- 車が運転しやすいまち、車と歩道を区別して車と接触しない
- 雨の日に滑りにくい道
- 危険が見つかる、人の目が行き届く
- 災害時に使える、備蓄がある、大規模な避難訓練しても参加できない人がいる、それをシミュレーションできる

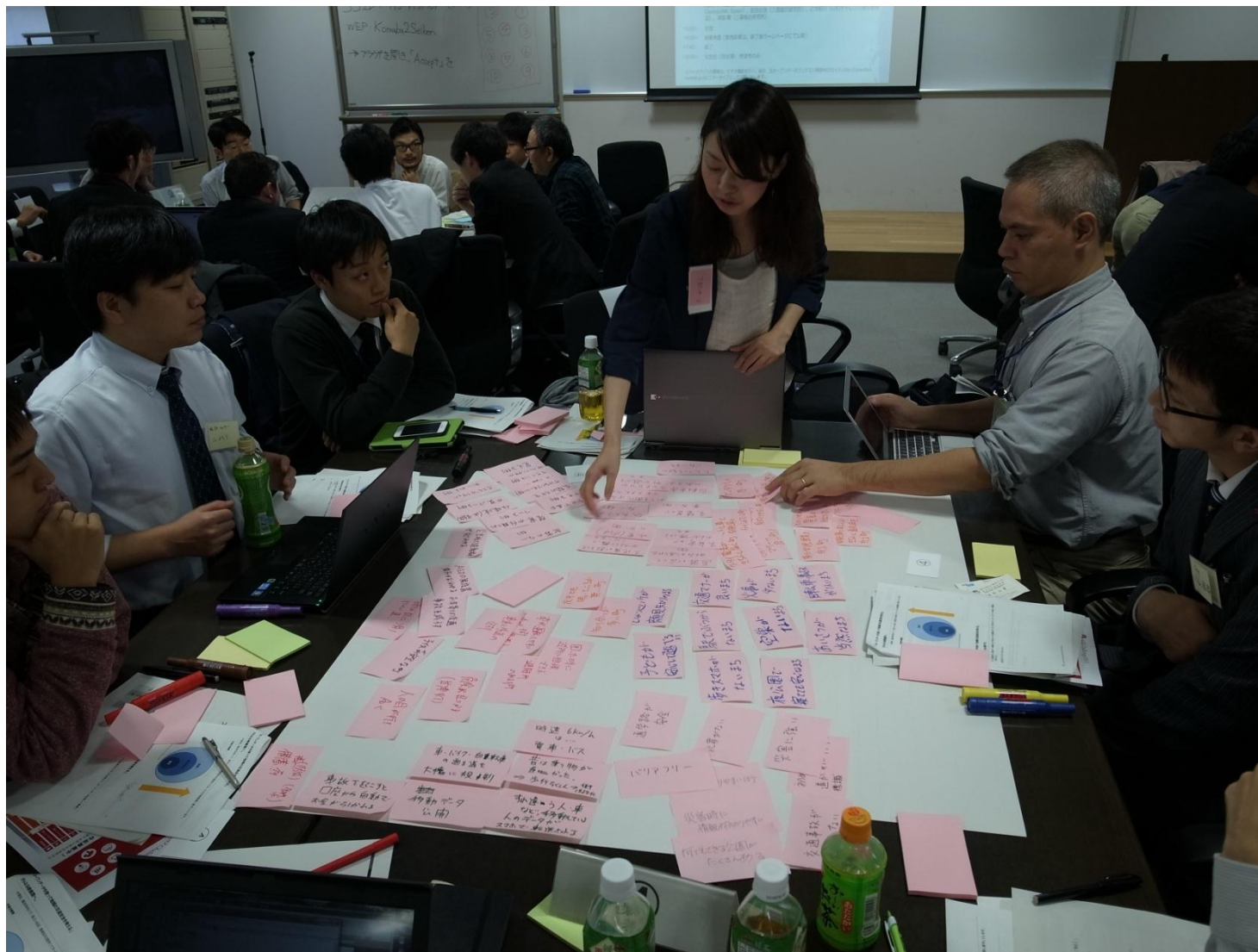
課題出し

- お年寄りの交通事故を減らす
- 子供が狙われる犯罪
- 事故が起こったときのAED
- 災害時の避難場所がすぐわかる
- 人間関係が大事、玄関の鍵をかけなくてもいい、子供だけで遠出ができる
- 住環境が整っているまち
- 警察が信頼されている街
- ぼったくりのない街
- 公衆トイレが見つけれられるかどうか →海外だと物を買わないと入れない

課題出し

- マクロ視点／ミクロ視点
- 駅でぶつからない
- 歩きスマホがないまち
- 夜公園で寝てても安心な街 →あたたかみのあるまち
- バリアフリー、犯罪がない街、交通事故がない、通学路が安全、災害に強い街
- 初めてきても道がわかりやすい
- 自転車が走りやすいまち →車からも歩行者からも追いやられている
- 災害時に情報が伝わりやすい →煙・風によっては通れなくなる、消えない信号機で情報が流れてくれるといい
- 子供がのびのびできる公園がたくさんある

課題出し



グループ化



課題テーマ

- 交通安全

- 防災

- 防犯

- その他

1. まちランキング(防犯)

✓ 課題:

犯罪がないまちにする(ひったくり、ぼったくり)

✓ 課題を解決するアイデア:

街灯の設置

過去の犯罪のマップ化、地域への共有

監視カメラでの監視、顔認識

過去犯罪、どんな人が犯罪を起こしているかの調査、分析、フィードバック

明朗会計

地域パトロール、防犯コミュニティの創出、まちづくりへの活用

✓ 必要なデータ(それはどこが持っているか):

犯罪種別 × 位置情報データ

笑顔情報、歩行速度(せかせかしているか)

明朗会計ランキング

キャッチ、呼び込み人数 等々

✓ その他

犯罪情報とまち情報(監視カメラからとった笑顔情報)によりまちランキングを作る

それを地域に公開し、パトロールに活用するとともに、地域力アップのモチベーションを持ってもらう、資産価値向上に活用する(犯罪が多いと資産価値が下落する=危機感をもってもらう)

さらに防犯教育に使って、地域への愛着をもってもらう。

ただ、警察と地域パトロールが協力する場合、地域で誰が行うのか？

→高齢者が見守る場合、抑止力ぐらいでは(犯罪にあっても捕まえない)。警察と地域が協力する仕組みが必要

犯罪情報

まち情報

犯罪ランキング

犯罪犯す人の
調査結果、DB

明朗会計
ランキング

キャッチ、呼び込
み人数

警察1人あたり
犯罪件数

まちランキング

地域に公開！

監視カメラ・顔認識技術

笑顔認識

歩行速度

警察と地域 みんなでパトロール

さらに…

コミュニティ

防犯教育

で活用していく

2. リアルタイム避難ナビ

✓ 課題:

災害からすぐに避難できる街にする

✓ 課題を解決するアイデア:

避難経路を示すナビ

避難場所をリアルタイムに更新して知らせることが出来る

道路が通れるかどうか

たまたまそこに来ていた人でも避難場所がわかる

✓ 必要なデータ(それはどこが持っているか):

避難所情報(自治体)

避難所の開設情報(自治体)

カーナビの軌跡情報(携帯電話のGPS情報)

歩いて通れる道路(道路管理者)

防犯カメラの情報(自治体)

✓ その他

大雨が降ったらやばい場所を知らせるマップ

高台・高い建物マップ

帰宅困難者止めてくれるところマップ

信頼できる情報(NHK、国等、出所や手段が明らかな情報)を使ってデマに惑わされない工夫。

Twitter、信頼性の高い情報だけを伝えられる仕組みを作る。情報を伝える方法を区分する。

優先接続をコントロールできる携帯電話